

3・5・15号 文里湾横断道路の都市計画決定について

1 背景・理由

文里湾横断道路は、「第2次田辺市総合計画」(H29.7策定)において、「交通の円滑化をはじめ、迅速な救急活動や広域連携、また、近い将来発生が予想されている南海トラフ地震等への対応として早期実現に向けて、取り組んでいくもの」と位置づけされています。

また、「田辺市津波避難困難地域解消計画」(H28.7策定)においては、「文里地区の津波避難困難地域のみならず、周辺に存在する要配慮者施設利用者等の避難路、避難場所として必要であることから今後とも計画実現に向け積極的に取り組んでいく」ことが位置づけされています。

文里湾横断道路は、一般県道文里湊線より文里港を跨ぎ、神島台方面に接続する架橋を含めた道路で、この道路が整備されることにより、主要地方道南紀白浜空港線と市の中心市街地とが結ばれ、近隣町との地域間を結ぶ道路として、交流人口の増大等による市街地の活性化に大きな役割を果たすものと考えております。

現在の周辺道路状況は、主要地方道田辺白浜線と一般県道文里港線が交差する橋谷交差点付近において、朝夕のラッシュ時には慢性的な渋滞が発生しており、平成27年7月の紀勢自動車道の南進により、一定の緩和がなされたものの、根本的な解決に至っていないのが現状であります。

この道路が整備された際には、主要地方道田辺白浜線、一般県道文里港線におけるラッシュ時の渋滞の緩和が期待されます。

また、救急搬送ルートとしても、三次救急医療機関である独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センターと市街地を結ぶ道路として搬送時間の短縮に寄与します。大規模災害時には、防災拠点ネットワーク港湾として耐震岸壁を備えている新文里港からの緊急物資等の輸送や、広域防災拠点である旧南紀白浜空港や南紀白浜空港からの救援活動や緊急物資等の輸送など、地域の早期復興に大きな役割を担う道路でもあります。

このような大きな役割をもつ重要な道路であることから、都市計画道路として決定を行いました。

2 道路の線形

文里地区側については、津波避難困難地域の住民や、その周辺に存在する要配慮者施設の利用者等が迅速に橋梁へ避難できるように、地域の南側にルートを設置し、神島高校南側付近の県道文里湊線への接続を考えています。

新庄町地区側につきましては、県道南紀白浜空港線への接続を考え、交差点状況などを踏まえ、神島台交差点付近で接続するルートを考えています。また、土石流危険区域等の指定地や住家への影響を最小限となるように線形を考慮しています。

3 道路の構造

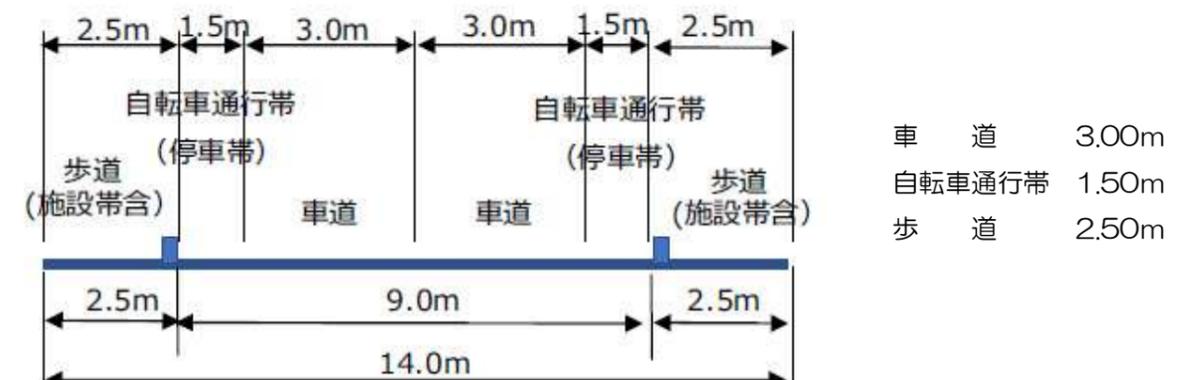
(1) 道路規格

道路区分：第4種第2級
設計速度：50km/h
最急縦断勾配：6.0%

(2) 道路幅員

車道として3.0m、通学など自転車の利用が多く見込まれることから歩行者と自転車を分離して、自転車通行帯1.5mと歩道2.5mとし通行の安全性を確保しています。

自転車通行帯については、通常時は自転車通行帯として、緊急時等には、停車帯としての利用を可能とし、両路肩に車両が停車した場合でも緊急車両の通行が可能となる幅で計画しています。



(3) 港湾部での高さ

現在の港湾利用船舶の実績等を踏まえクリアランスを算出しています。船舶が支障なく航行できるよう桁下高さ25mを確保し計画しています。